

北海道下川町



持続可能な森林づくりの根幹となる町有林。毎年50ヘクタールを植林し、60年サイクルで育林、伐採を繰り返す「循環型森林経営」の確立に取り組んでいる。

評価のポイント

下川町では、恵まれた森林資源を活かし、毎年50ヘクタールを植栽し、60年間育成した後、伐採、収穫し、再び造林するというサイクルを繰り返す「循環型森林経営」を基本として、持続的な生産が可能な森林づくりを進めている。

同町では、従来の林業にとどまらず、「木質バイオマスボイラー」の導入や「環境共生型（エコハウス）モデル住宅整備事業」の実施など環境保全にも関わる先駆的な取り組みを実施しており、町にある森林資源を「木材」としてはもちろん、「森林療法」や「森

林環境教育」といった「癒しの空間」、「教育の場」、そして「調湿材」や「化粧水」にまで余すところなく活用しており、森林資源を活かし切った森林経営を実践している。

また、平成元年以降90人以上のU・Iターン者が林業に従事しており、地元新卒者も20人が従事するなど、森林資源を活かすことによって、地域の産業と雇用効果をあげている。

本事例は、地域産業である林業を取り巻く状況が厳しい中で、町の貴重な資源である森林を丸ごと有効に活用して多くの先駆的取り組みを実践し、地域活性化に結び付けていることが評価された。

森林と大地と 人が輝くまち“しもかわ”

森林共生低炭素モデル社会の創造



林業にはU・Iターン者が数多く従事しているほか、地元新卒者も従事し、地域産業の中核を担っている。



幼児期から高校まで一貫した「森林環境教育」。子供たちが「森のあそび」から始まり、森に親しみ、森の恵みや機能を体験し、森との関わり方を学び、行動への導きをイメージしている。



森林の癒し機能に着目した森林療法。日常から少し距離をおいた自然空間で心身をリフレッシュ。自然治癒力が高まる効果も期待できる。



毎年実施している植樹祭。森林の育成を通して森林や林業への理解や緑化意識を一層深めていく。

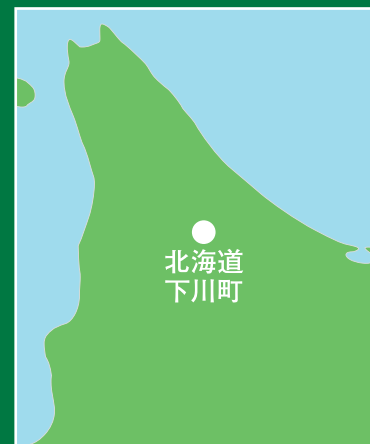
事例の概要

◎下川町は、天塩川の支流名寄川の上流部、名寄盆地の東縁に位置しており、全域が過疎地域の町である。町の面積の約9割を森林が占める同町では、伝統的に林業が盛んであり、地域の恵まれた森林資源を活かし、毎年50ヘクタールを植栽し、60年間育成後に伐採するという「循環型森林経営」を基本に、持続的な生産が可能な森林づくりを進めている。

平成6年度から平成15年度までに1,902ヘクタールの国有林を取得、現在は町有林の経営面積を4,470ヘクタールとし、持続可能な「循環型森林経営」の基盤を確保している。

◎活動としては、木材生産にとどまらず、木炭や木酢液、土壌改良材など切り出される間伐材等を余すところなく活用するとともに、町内製材工場から出される端材や林地残材を燃料に利用した公共施設への木質バイオマスボイラーの導入、資源作物「ヤナギ」の栽培試験、都市住民や企業と連携によるカーボンオフセットを通じた森林づくり、町有林をフィールドとして森林環境教育プログラムの実践、国際的な認証である「FSC森林認証」の取得、FSC森林認証製品の生産と販売の拡大等に取り組んでいる。

北海道 下川町(しもかわちょう)



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
15,555	11,568	4,747	4,413	4,146

人口増減率

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-73.3	-64.2	-7.0	-6.1

高齢者・若年者比率(H17年)

高齢者比率	若年者比率
33.3	12.8

交通のご案内

自動車・道央自動車道士別剣淵ICから国道40号、国道239号
経由60分
鉄 道・JR宗谷本線名寄駅からバス30分
飛行機・旭川空港から自動車140分

団体連絡先

北海道 下川町
〒098-1206
北海道上川郡下川町幸町63番地
TEL/01655-4-2511
URL/ <http://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/>